

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：<http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>

校風を広げる力

校長 大塚 健一

本校の創設の願いを受け継いだ8期生が入学してきました。まだ、入学して間もないですが、本校の校訓である「誠実」「礼節」「協力」の精神である本校の校風を漂わせる上級生の姿勢を見ながら受け継ぐ努力が重なられています。まだまだ入学したばかりで動きや意識は不十分ですが、学校生活と寄宿舎生活を積み重ねることで培われると信じております。

多くの中学校から様々な教えを持って入学してきた生徒たちが、直ぐに仲良く、心を開いて充実した人間関係が築かれるまでは時間が必要であると思います。2, 3年生の先輩を見習い、一日も早く、校訓の精神がみなぎる海洋国際生として成長してほしいと願っております。

入学許可した生徒達が5月連休の一斉帰省後に何かしらの気の緩みや本来の入学した目標が失われたり、目先の事（携帯やゲーム等）に目が向かったりして、本来のやるべき事や目標を失うことがあります。そうならないためにも今一度、気持ちをしっかり振り返り、夢実現に向けて努力を忘れないでください。

繰り返しますが、改めて本校の生徒である誇りを持ち、学ぶ地域の環境への感謝の姿勢に身を投じてください。皆さんが健全な心身を養う背景には、学びの土台となる大島の地域の支えがあります。また、本校には大島丸を代表とする施設、設備はもとより、学ぶ教材、教具は東京都や国の基準を最大限に取り込み、都立高校でも屈指の学校であります。陸上では分からない大海原の貴重な体験や地域の伝統的な技能を伝承する機会など、本校の海を通して世界を知る教育のテーマは海洋国際科における国際系、海洋系の課題解決を途絶えさせはならない使命を帯びています。

次の時代を担う生徒には、今一度、本校で学ぶ意義を自分自身に振り返って頑張ってくれることを期待しています。



ジュニアマリン賞優秀賞受賞

平成24年度の3年生沖ノ鳥島観測班がまとめた「沖ノ鳥島海域における水塊特性に関する研究Ⅱ」が、海に関する研究レポートを審査する日本海事広報協会主催の「ジュニアマリン賞高校生部門」において、優秀賞を受賞しました。3月28日に代表して中心的にまとめた山田君、松浦君、中島君の3名が表彰式に出席しました。毎年4月に実施している大島丸での沖ノ鳥島周辺の海洋観測をまとめたもので、「北太平洋亜熱帯モード水」「北太平洋中層水」という2つの水塊の年度毎の変動について考察したものです。



(写真：審査委員のアグネスチャン先生と記念撮影)

入学式

4月9日、80名の新入生を向かえ、大島町町長はじめ多くの御来賓の方がたに御参列いただいて、8回目の入学式を挙行了しました。代表の挨拶です。

宣誓

希望にあふれる輝かしい春を迎えました。本日私たち新入生のためにこのような盛大な式を挙行していただきありがとうございます。

私たち新入生80名は不安もありますが期待と希望を胸に、この東京都立大島海洋国際高等学校に入学しました。これからはじまる学校生活で本校なら学力向上だけではなく、他校では学ぶことができない寮生活や国際交流を通し個々の自立や自分の可能性を広げていくことができます。

私は国際教育に興味があるので他の国の文化など様々なことを知り、学んでいきたいと考えています。3年間の中で楽しいことだけではなく辛く逃げたいときがあると思います。そんなとき仲間と助け合い自分の力を信じ乗り越えて行きます。

大きく成長出来るよう勉学に励み、またともに入学した仲間と力を合わせ精一杯一つ一つに思いを込め意味のある日々を過ごしていくことを誓います。

最後になりましたが先生方、先輩方にはお世話になることと思います。どうぞ私たち新入生を宜しくお願い致します。

平成25年4月9日

新入生代表

山口 琳夏

沖ノ鳥島観測航海

4月12日より2週間の日程で沖ノ鳥島観測航海学習が行なわれました。今回は3年海洋系13名(内4名が女子)が参加しました。今回は東京大学海洋アライアランスの丹羽淑博特任准教授に乗船していただき、観測についてのアドバイスをいただきました。往路の黒潮横断時にはXBTという測器を用いての観測をして、データ整理を御指導いただきました。

【特別寄稿】 大島丸・沖ノ鳥島観測実習航海に参加して

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター・特任准教授 丹羽淑博

今回の実習航海には沖ノ鳥島の近傍における海水の鉛直混合強度を測定するために参加した。沖ノ鳥島はその地形的特徴から大海中の言わば「かき混ぜ棒」の役割を担い、潮汐流や海流がぶつかることで海水を鉛直方向に混合させ栄養塩に富む深層水を表層に引き上げる湧昇効果を持っているが、その実態は未だ殆ど解明されていない。この深層水の湧昇は豊かな生態系と漁業資源を生み出すだけでなく、全球規模の深層大循環を駆動し現在の温暖な気候を維持するのに本質的に重要な役割を担っている。



大島丸では沖ノ鳥島周辺海域での水温・塩分の水平鉛直分布の詳細な観測を数年間に渡って実施してきており、この観測を今後も長年にわたり継続することは非常に大きな学問的意義があると感じた。同様の離島周辺海域における同一地点の継続的観測はハワイ大学によるオアフ島沖でのものが知られるぐらいであり、この沖ノ鳥島観測を継続することは国際的にも高く評価される可能性を持っている。今後は大学や研究機関と積極的に協力して観測体制のさらなる充実を図るとともに、海洋国際高校の生徒の側でも授業やクラブ活動において蓄積された観測データを自ら解析して新たな課題を自ら発見し、それを翌年の観測計画に反映させる努力をすることでさらに発展的かつ教育的な観測実習になると思う。

また今回の航海に参加して、生徒たちの実習に取り組む姿勢が非常に印象に残った。各生徒が仕事を責任持って担当し、足りない部分はお互い補い合い、全員で観測実習を成功させようとする強い意志を感じた。CTD 観測中のデッキ清掃作業というハードワークを皆で自然に声を掛け合いながら協力してこなす様子には感銘を受けた。出航前にある生徒から「うちの学校は皆が自立しているので、いじめがない」と聞いたが、そのベースに大島丸の実習航海で培われるシーマンシップがあるのは間違いないと強く感じた。



【生徒感想】

日本の最南端を見て

須原 大将

東京を出港して4日、朝起きて甲板に出ると船の前に沖ノ鳥島が見えました。初めて島を目の前にしたときは、「ようやく着いたんだ。」とすごく安心した気持ちになりました。波も風も穏やかで見渡すかぎり海が広がるだけの景色の中に突然、観測所と工事をする作業船が現れ、島本体を取り囲むコンクリートの防波堤は目を凝らさなければ見えないような状態でした。この島が日本の領土を越える面積の排他的経済水域を有していると思うとすごく不思議な思いになりました。

強い日射しの中、ほとんど観測所しか見えないような島の周りを取り囲むように観測地点を巡り、皆で協力しながらCTDを降ろす作業は辛かった反面、とても充実した時間でした。失敗して叱られることもありましたが、皆で力を合わせて、ここで観測できたことがとても嬉しかったです。

離着任の先生方を紹介します

	転出された先生方		着任された先生方	
副校長	北江 繁治	大泉高校	佐藤 尚之	荻窪高校
舎監長	柴山 佳久	拝島高校	小口 淑美	新宿高校
HM	黒澤 邦夫	新島高校	佐藤 浩太	上野高校
国語	佐々木 研	葛飾総合高校	笹井 拓也	田無高校
国語	指田 直樹	松が谷高校	城間 圭太	駒場高校
地歴	楫 太朗	美原高校	森田 英樹	小松川高校
数学	森本 一雄	大島高校	小川 重陽	蒲田高校
情報	大和 雅俊	本所高校		
英語	新田 太一	東久留米総合高校	五十嵐 正	葛飾野高校
英語	吉村 公介	上水高校	中川 智晶	桜町高校
海洋			伊藤 陽介	本校講師
理科	越智 誠治	千葉県私立高校	秋葉 祐子	本年度より講師
世界史	柳川 浩規	東京都公立中学校	加藤 潤	本年度より講師
家庭	舟金 健太	静岡県立高校	小俣 絵美	本年度より講師
			鈴木 佳江	本年度より講師
			宮内 淑子	本年度より講師
企画室長	岩田美紀夫	町田工業高校	加藤 光男	本校から昇任
主事	小池 暢周	大島町立第三中学校	櫻井 雄一	スポーツ局
	木村 忠義	中部学校経営支援C	三上 祐介	南葛飾高校
主事	松江由利子	大島高校	平 恵	専務的非常勤
			田村 愛	専務的非常勤
司厨長	佐藤 政喜	退職	新 季生	派遣司厨員
甲板員	畔柳 祐史	退職	今井 道夫	派遣甲板員
			津田 光雄	派遣甲板員